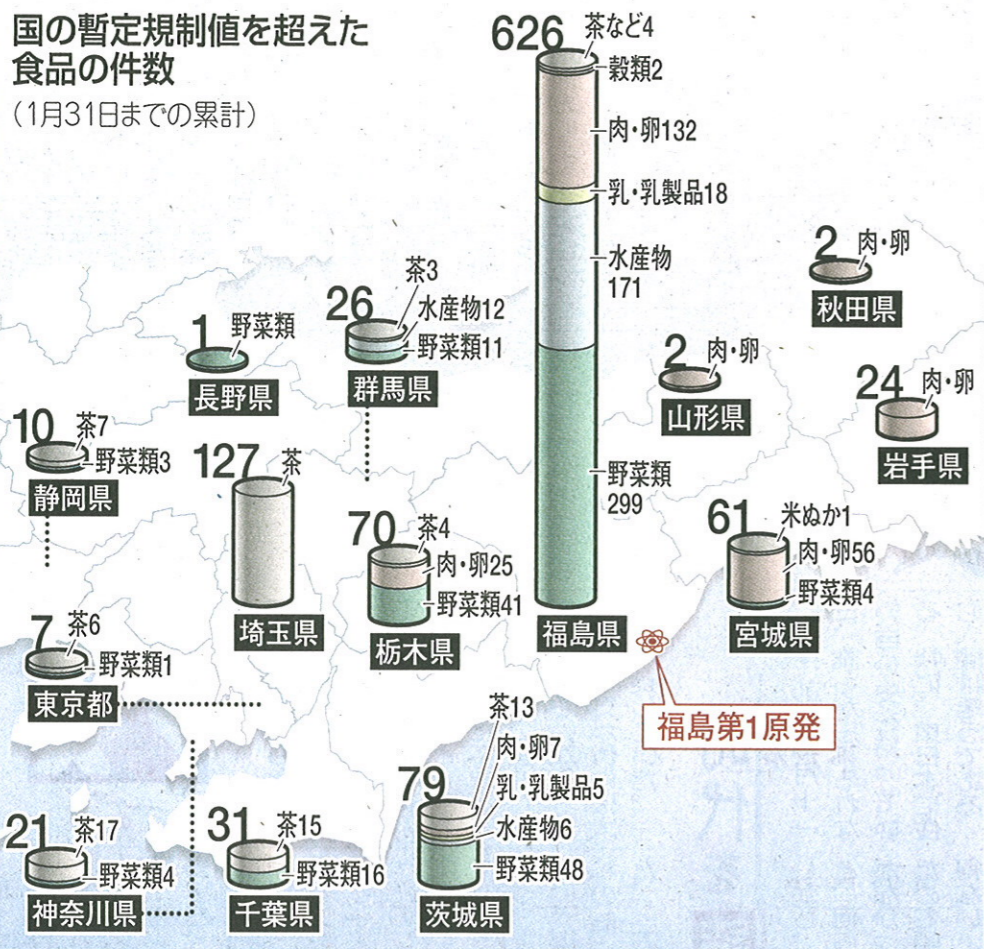


東日本大震災1年

国の暫定規制値を超えた食品の件数

(1月31日までの累計)

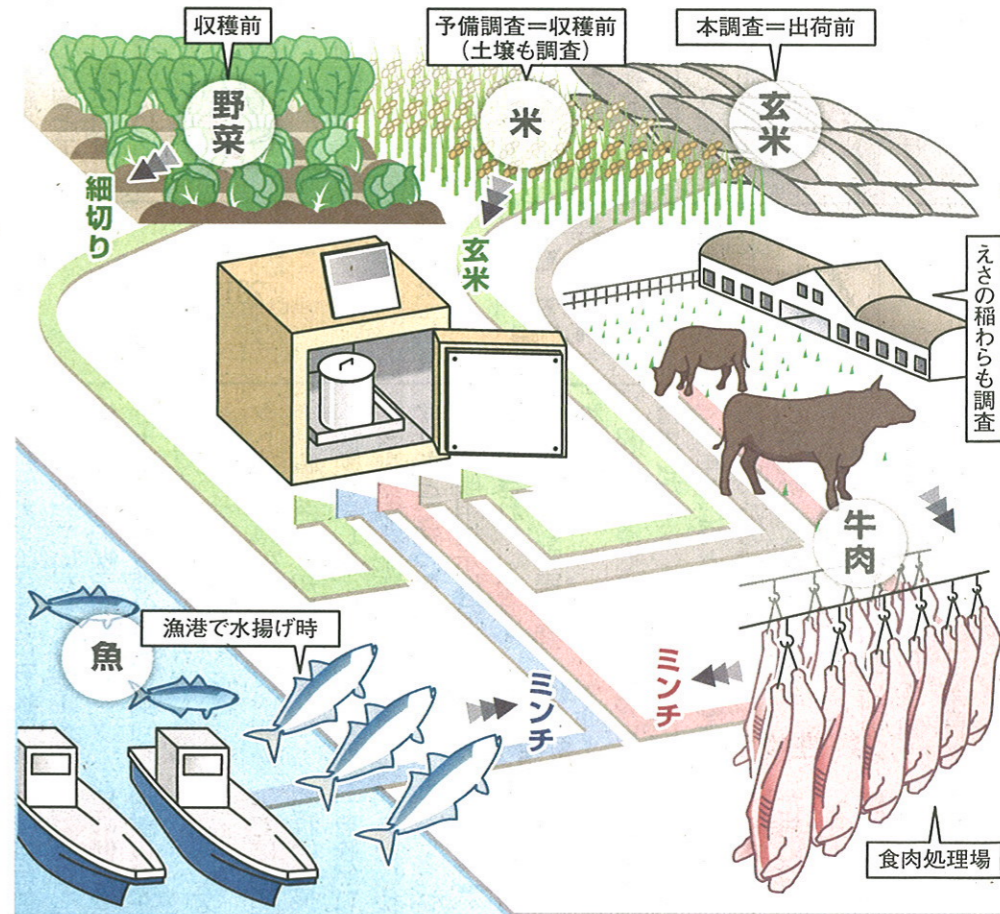


暫定規制値超え1%

東京電力福島第一原発事故で、大量に放出された放射性物質による食品汚染が続いている。この一年の汚染の状況や、内部被ばくを防ぐための食品規制の仕組み、自治体や民間による食品検査の現状を取材した。

17都県に検査を要請

主な食品の放射性物質検査の流れ



日本の主食であるコメは、ほかの食品に比べ厳しくチェックされている。十七都県で昨年秋季に収穫されたコメの場合、土壌が一定水準以上の放射性セシウムに汚染された地域などで収穫

福島第一原発の事故を受け、国は放射性物質による汚染食品の流通を防ぐため、福島県や首都圏一都六県など計十七都県に食品検査を要請している。自主的に実施している自治体を含めると、全国で食品に含まれる放射性セシウムなどの検査が行われている。結果はホームページなどで公表されている。

調査対象として国は、ホウレンソウやキャベツなどの野菜類、シラスなどの水産物、リンゴやブドウなど果実類、牛肉などの肉類、コメ、茶などを列挙している。

検査は各自治体の施設か、自治体から依頼を受けた民間検査機関などで実施している。原則、出荷前の食品を抜き取って行う。食品の品目ごとに、週に一回ほど検査する。汚染食品が検査をすり抜けることも考えられ、小売店などに流通した食品を調べることもある。

全国の自治体が一月末までに実施した食品に含まれる放射性セシウムの検査十萬七百三十八件のうち、暫定規制値を超えたのは約1%にあたる千八十七件だった。現在、暫定規制値を超えているのは、福島県など一部地域の食品で、品目もキノコ類や水産物などに限られている。

都道府県別では、福島が最多で六百二十六件。次いで埼玉(百二十七件)、茨城(七十九件)、栃木(七十件)、宮城(六十一件)など。青森以北と愛知・岐阜・富山以西での暫定規制値超えはなかった。

最初に食品汚染が明らかになったのは昨年三月十九日。福島県で搾乳した牛の原乳から最大で暫定規制値の五倍となる一酪あたり一五二〇ppmが、茨城県内で生産されたホウレンソウからも最大で規制値の七・五倍の一萬五〇二〇ppmの放射性ヨウ素が検出された。野菜の汚染は栃木、群馬、千葉、東京の各都県に広がり、品目数も増えた。

水産物では四月初旬、茨城県沖で採取したコウナゴから暫定規制値を超える放射性セシウムが検出。その後、汚染は海水面

前の玄米を予備調査。収穫後はそれ以外の地域も含め、玄米を抜き取って本調査をした。この際、予備調査で一定水準以上のセシウムがコメから検出された地域は、「重点調査区域」としてより細かく調べた。

肉牛は、食肉処理場で検体を取り出して検査する。検体には、枝肉のうちセシウムがたまりやすい部位の一つである首の肉をミンチにして測る。

肉牛が一時出荷停止となった栃木県や福島県など四県では、停止解除の条件として、セシウムに汚染された稲わらを与えた疑いがあるなどの農家で全頭を、それ以外の農家では三月月ごとに一戸一頭以上を調べている。

野菜や果実は収穫直前のものを細切りにして、魚介類は漁港に水揚げされたものをミンチにして検査する。

付近の小魚から海底のカレイや岩場のウニや貝などに拡大している。

福島県などの原水イタケやタケノコ、アユなどの淡水魚も暫定規制値を超えた。茶の汚染は神奈川県や静岡までの八県に及び、汚染された肉牛が各地に流通する事態も起きた。

秋以降、暫定規制値を超える食品は減ったが、マツタケなどの自生キノコ、イノシシやシカなどの野生動物、福島、茨城県沖の水産物の一部で汚染が確認されている。

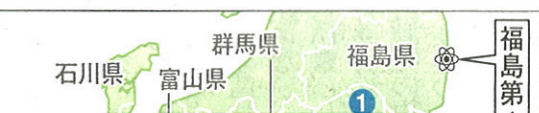
美作大大学院の山口英昌教授(食環境科学)は「水中や山中など除染が難しい環境で生息する魚介類と野生種には注意が必要だ。特に魚は、海にホットスポットができていたり、食物連鎖による生物濃縮があったりする」と話した。

食を守る



関東・中部の主な食品放射能測定所

1 那須を希望の誓にしよう!(那須町)
☎080(6051)6424



査。収穫後にも含め、玄米を一定水準以上から検出され「調査区域」とした。検査は、検査区域を調査し、検査結果を公表する。検査結果を公表する。検査結果を公表する。

良を する

関東・中部の主な食品放射能測定所

- 1 那須を希望の砦にしよう! (那須町) ☎080(6051)6424
- 2 県薬剤師会(前橋市) ☎027(223)6355
- 3 県薬剤師会(水戸市) ☎029(306)9086
- 4 私達の未来測定所・秩父おがの(小鹿野町) ☎090(9328)4563
- 5 ベクミル 柏店(柏市) ☎04(7189)7416
- 6 有害化学物質削減ネットワーク(江東区) ☎03(5627)7520
- 7 たんぼぼ舎(千代田区) ☎03(3238)9035
- 8 ベクサーチ渋谷店(渋谷区) ☎03(6427)0288
- 9 CRMS せたがや市民放射能測定所(世田谷区) ☎03(5787)8115 ※4月中旬～受け付け
- 10 こどもみらい測定所(国分寺市) ☎042(312)4414
- 11 市放射能測定器運営連絡協議会(小金井市) ☎市代表042(383)1111 ※市内在住・在勤・在学者のみ。
- 12 東林間放射能測定室(相模原市) ☎042(747)2858
- 13 静岡放射能汚染測定室(静岡市) ☎054(209)2021



- 14 放射能測定伊那谷市民ネットワーク(飯田市) ☎080(4598)2553
- 15 信州放射能ラボ(塩尻市) ☎0263(50)8651
- 16 県保健環境研究所(各務原市) ☎県生活衛生課058(272)8280
- 17 C-ラボ(名古屋市) ☎052(501)0251
- 18 県環境保全事業団(津市) ☎059(245)7508
- 19 県予防医学協会(金沢市) ☎076(269)2344
- 20 日本海環境サービス(富山市) ☎076(433)3038
- 21 北陸環境科学研究所(福井市) ☎0776(22)2771
- 22 日吉(近江八幡市) ☎0748(32)5001

福島第一原発事故後、消費者や農家など市民が食品の放射能を測る動きが広がった。地元の農産物だけでなく、全国規模で流通する食品もあるため、関東・中部地方でも個人が持ち込める放射能測定所が増えている。

全国に広がる測定所

による市民団体の測定所。「全国市民放射能測定所ネットワーク(仮称)」の二月の会合には、立ち上げ準備中の測定所も含め約三十団体が参加した。各団体が使用する検査機は、自治体の検査でも使われている一台数十万～数百万円の簡易型のシンチレシーション式が主流だ。中部地方では、脱原発を目指す市民グループ「未来につなげる・東海ネット」(名古屋市)が昨年九月、名古屋市西区に「市民放射能測定センター」を表。申し込みは関東地方から最も多いという。静岡市や長野県中野、南信地方でも市民測定所が活躍。医療系の公益法人や研究所が参入したり、岐阜県のように行政が個人の測定を受け付けている地域もある。

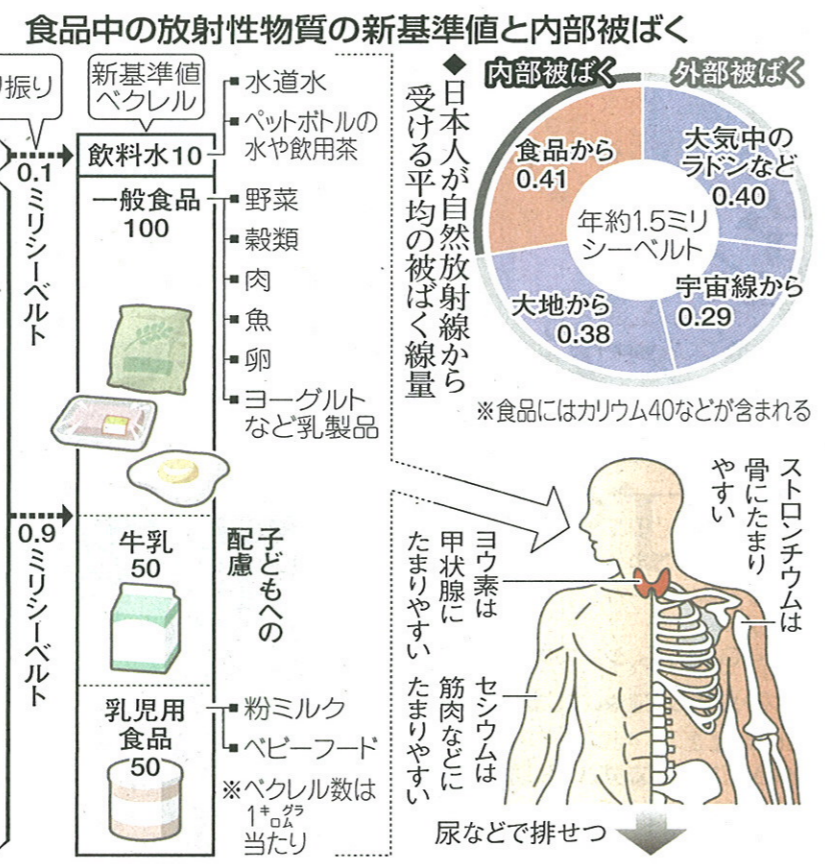


放射能測定器で小麦粉を測定する市民グループのスタッフ＝名古屋市西区のC-ラボで



大手スーパーは放射性物質の測定を強化し、消費者の不安解消に努めている＝名古屋市東区のイオンナゴヤドーム前店で

生活考え新基準算出



呼吸や食事によって体内に取り込んだ放射性物質による「内部被ばく」。排せつなどで排出しきれない場合、放射性物質は蓄積され、体の内側から放射線を浴び続けることになる。

放射性物質のうちセシウムは筋肉、ストロンチウムは骨、プルトニウムは肺にたまりやすいため、健康に影響が出る可能性がある。放射線によって細胞の遺伝子が傷つけられ、遺伝子の修復が間に合わないとがんなどのリスクが高まるとされる。

食品中の放射性物質の新基準値

合計年1.5ミリシーベルト

飲料水10

一般食品100

牛乳50

乳児用食品50

粉ミルク

ベビーフード

ベクレル数

1kgあたり

昨年十一月の各自自治体による検査データで、一般食品の新基準値を超過している割合は、福島産では魚介類34.92%、キノコ類17.95%、果実類9.98%、コメは1%未満。野菜や牛肉は1%未満。関東を含むその他の地域では、キノコ類28.13%、魚介類2.15%、果実0.43%などだった。